

長野県社会福祉士会 NEWS

第190号
2022/5/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 上條 通夫
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsww.jp HP▶https://nacsww.jp/

設立30周年記念セミナー・鼎談予告 1
東信/北信セミナー 2~3
中信/南信セミナー 4~5

Contents

民法改正・成年年齢引き下げの経緯と想定される影響 6
特集『社会福祉士だからこそ読んでほしい！
おすすめのこの一冊』 7
リレーエッセイ・信州ぐるっと!!・編集後記 8

予告

長野県社会福祉士会設立30周年記念セミナー 6月19日(日)開催

1992年に設立した本会は、今年30周年を迎え、6月19日に記念セミナーをオンラインで開催します。13時30分開会、記念式典は長野県知事、長野県社会福祉協議会長、日本社会福祉士会長の祝辞と福祉関係団体・職能団体からの祝辞を紹介する予定です。14時からは記念鼎談、13時20分からはトークセッションを行います。詳細・申込は案内チラシをご確認ください。

記念鼎談

ソーシャルワーカーとして現代に伝え、未来につなぎたいことがある — 人々の尊厳を価値基盤に、勇気をもって声を上げ協働する —

鼎談では過去をリスペクトし現在に伝えたいこと、そして未来志向でソーシャルワーカーへの期待を含め提案・提言・決意を語り、ソーシャルワーカーの役割、専門職への道筋等を考え合いたい(4月7日鼎談者打合せから)

鼎談者

◇山口 光治 氏

淑徳大学・学長
(長野市出身)
日本高齢者虐待防
止学会理事



◇原田 正樹 氏

日本福祉大学・前副
学長(諏訪市出身)
日本地域福祉学会
会長



◇佐藤もも子 氏

長野県社会福祉士
会・理事
東御市社会福祉協
議会勤務



序章(第1幕) 信州から全国への発信

社会福祉士会第3回全国大会(1995.1.20諏訪市開催)の社会福祉士学会からは、児童・高齢・障がいといった分野別の分科会から、横断的な分科会構成に変更した。今日の生涯研修制度(6領域)へと発展した。

阪神淡路大震災発生、「ボランティア元年」といわれる災害支援活動は、その後の東日本大震災、台風19号災害への災害福祉支援活動へとつながっている。災害福祉支援で社会福祉士、ソーシャルワーカーの果たす役割がある。

第2幕 権利擁護、地域共生社会、メゾマクロ

長野県社会福祉士会の目的は、定款に「福祉の援助を必要とする県民生活の支援と権利の擁護」等を明文化している。成年後見制度の利用促進や意思決定支援の取組み、身寄り問題の改善等が必要である。

社会福祉士は、制度の中でのみ実践せず社会で起きていることに目を向け越境して行動を起こせることが必要。その根底基盤には専門的な価値があり、動くには知識や技術が必要でその源は熱き思いである。社会福祉士は平和を求め人々の尊厳を守り抑圧から解放という使命がある。ウクライナではその真逆な侵略戦争

が行われている。足元の実践現場に立ち返り実践ができていないのか改めて問い直したい。

地域共生社会の理念は、行き過ぎたサービス至上主義の在り方を見直し、人と人、人と資源が世代や分野を越えてつながるといった関係性を見直し、将来に向けた新しいセーフティネットを構築しようとする試みでもある。

社会福祉士は「相談援助業務」とされているが、対人援助だけではなく、社会資源開発とか地域課題をどう解決するかミクロソーシャルワークに止まらずメゾマクロで多分野と協働・越境し、地域づくりや政策提言、社会を変えていくことも大切である。

第3幕 ソーシャルワーカーの役割・期待・協働

新カリキュラムの検討にあたって、ソーシャルワークは法的根拠がないと指摘された。法律による社会福祉士の定義の見直しが必要である。名称独占のままでもいいのかも含めて、職能団体として議論する必要があるのではないか。

ソーシャルワーカーの役割・期待等については、トークセッションに参画しながらみんなで考え合いたい。

コロナ禍における社会福祉士の権利擁護

東信地区ではコロナ禍においても、社会福祉士の価値と専門性を高め、笑顔をつなぐべく、年間を通して高齢者・地域・児童・障がい者の福祉現場における実践報告・事例検討を行ってきた。2月19日(出)オンライン開催にて、コロナ禍における「まいさぼ」の活動を聴いたうえで、ブレイクアウトセッションを通じて自身の一年間を振り返った。今回は33人の参加があった。



小林ちひろ

「コロナ禍におけるまいさぼ小諸市の支援について」

講師：小林 ちひろ氏（小諸市社会福祉協議会）

まいさぼ小諸の小林ちひろ会員が、制度や業務の紹介後、複合的な課題を抱えているケースへ多機関が連携した事例の発表を行った。ブレイクアウトセッションでは「社会福祉士の“私”が感じたことは何か?」「日々の仕事のつながりで、まいさぼに相談したいケースの有無」「まいさぼと今後連携できそうなこと」について意見交換を行った。



まいさぼとなじみのない方からは、まいさぼの対象者や相談経緯についての質問も出た。「8050問題を越えて、805020問題の様相で孫世代にも心配な家庭が見受けられる」「複合的な問題解決の難しさや連携の在り方の難しさがあり、支援の輪を広げて行く必要がある」「家族で

問題を抱える場合の家庭全体のゴールをどこに設定し、マネジメントはどう行うのか、形だけではない連携の在り方を考えることが必要」などの意見もあった。発表者の小林氏の寄り添う姿勢から、参加者は社会福祉士として分野を越えて皆で連携していくことの大切さを共有することができた。



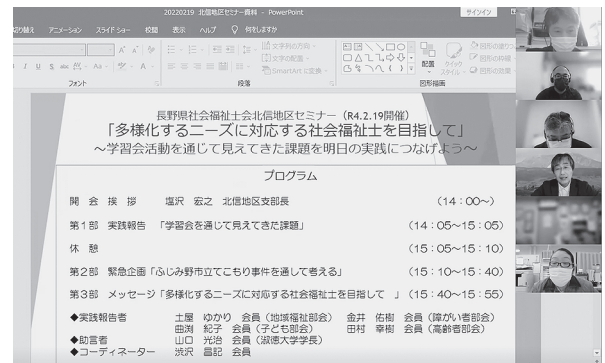
東信地区総会

委任状を含め179人の参加があり、オンライン開催で2021年度事業報告と2022年度事業計画が承認された。西澤支部長からは、次年度さらに「これまで参加が難しかった会員が関わる機会を持てるもの、またそれぞれの立場で社会福祉士として何を考え、何に取り組むかを考えられるような地区活動を企画・展開していきたい」とやわらかくも熱い意気込みが表明された。

その後の会員交流会では「学生の自分が、今の自分を見たら何て言うかな?」「今まさに、取り組んでいる課題は何か?」をテーマに短時間ではあったが活発で有意義な意見交換が行われた。今回の総会は画面越しとなったが、次回はコロナが収まり対面で会えますように。

多様化するニーズに対応する 社会福祉士を目指して ～学習会活動を通じて見えてきた課題を明日の実践につなげよう～

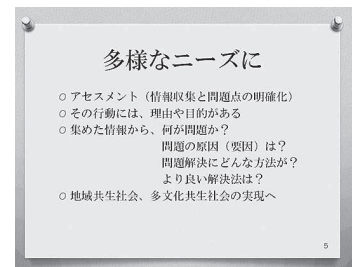
2月19日、オンラインで行い、会員42人が参加。テーマは「多様化するニーズに対応する社会福祉士を目指して～学習会活動を通じて見えてきた課題を明日の実践につなげよう～」。山口光治会員（淑徳大学学長）が助言者を務め、2021年度の学習会から見えてきた課題や、「支援者に向かってくる」家族への対応などについて学んだ。



第1部 「学習会を通して見えてきた課題」

当年度実施した4回の学習会の内容を振り返るとともに、見えてきた課題について情報共有した。

- 『「コロナ禍」何が起きてる？何が問題？～医療・司法・福祉それぞれの立場で語り、考える～』**
 コロナ禍にあって医療、司法、福祉の現場で起きていることの報告と意見交換を行った。制度の「はざま」や、利用者の「生活の質」の確保…などの課題が挙げられた（会報第186号既報）。
- 「生きづらさの背景は～大人になってわかった知的障がい・発達障がいの事例から～』**
 大人になって知的障がいなどが分かり相談や支援につながった事例から、当事者や家族との関わりを考察。介入の機会を逃さないネットワークづくり、本人の「困り感」を理解した関係づくり…などが課題とされた。
- 「ヤングケアラーについて学ぶ研修会』**
 長野県社会福祉士会福祉活動委員会子ども部会企画、北信支部協力（会報第188号既報）。高齢者や障がい者の家族を「資源」ではなく「支援対象者」として受け止めるにはどうしたらよいか…などの課題が挙げられた。
- 「関わりが難しい、支援が必要な家族とどうかかわるか』**
 家族により必要な支援が受けられないケースなどの報告から、困難化の背景について意見交換。互いに影響し合っている家族へのアプローチ、経緯や今後の予測を大切にした連携づくり…などが課題として見えてきた。



第2部 ふじみ野市立てこもり事件を通して考える～“支援者側に向かってくる人” 現実や思いを語ろう～

今年1月、埼玉県ふじみ野市で医師らが患者の家族に殺傷されるという事件が起きた。緊急企画として、正しいと思う方法を押しかけるような「支援者側に向かってくる」家族について、会員が実際に直面した事例や、そのときの対応などについて情報共有を図った。

第3部 メッセージ「多様化するニーズに対応する社会福祉士を目指して」



最後に、山口会員がコメント。多様化するニーズに対応するためには「横軸」を作ることが重要。社会福祉士はジェネラリストであってスペシャリストではない。幅広い知見と多面的な視野、さまざまな分野との連携が必要。

相手側にあるニーズに対し丁寧なアセスメントを重ね、本人と一緒により良い方法を考えられる人材が求められる～というメッセージを受け、参加者は「今日の課題を明日の実践に」との認識を新たにしました。

北信地区総会

2月19日、オンラインにて開催（出席者41人、委任状121人）。

塩沢支部長が、2021年度はコロナ禍にあって活動も続けること、限られた環境でもつながること、少しずつ成果を積み上げることを3つを心がけてきたと報告。30周年の節目となる2022年度は会および地区事業の活動がますます活発になるよう会員への協力を呼びかけた。

当日参加した会員からも委員会活動の近況や地区活動への要望などの情報交換を行い、交流を図った。

東日本大震災から10年 災害支援について考える

2022年2月19日(土)、塩尻市市民交流センター（えんぱーく）を主会場とし、Zoomによるオンラインにてセミナーを開催しました。「東日本大震災から10年 災害支援について考える」をテーマに30人の参加者とともに被災地の現況や災害支援について理解を深めました。

【講演】「東日本大震災から復興への取り組みについて」

講師：菊池 亮 氏（釜石市社会福祉協議会）



東日本大震災から11年経過したが、被災地では毎日、復興にかかわるニュースが流れている。先日、ボランティアの感謝の集いが行われ、失敗や後悔、感謝を思い出した。11年を振り返って災害時の社会福祉協議会への求めと反省、さまざまな法人や関係機関との連携の必要性について話したい。

被災直後は現状の福祉サービスが必要な方への支援に加え、新たに被災した方への支援が急務になった。この両面に対応をしなければならなかったが、被災した方々の支援が優先となり、福祉課題のあった方々への支援が後回しになってしまった。

社会福祉協議会は行政からの補助があり、地域の皆様から会費をいただいで運営をしている立場で、社会福祉法にも地域福祉の推進役として規定もされ、地域において柔軟な対応で役割を果たす必要がある。行政と社会福祉協議会だけでは被災地支援はできない。地域にある社会福祉法人や福祉団体と社会福祉協議会との連携は必須条件である。当時、福祉課題のある対象者支援は社会福祉法人に任せっきりになってしまった。日常的に地域課題に対する取り組みを社会貢献しながら連携する必要がある。社会福祉協議会の限界が福祉活動の限界になってはならない。普段から顔の見える関係ができていないといけない。

被災者支援は、被災当時のボランティアセンターから仮設住宅へ移行するなかでのコミュニティ支援や災害公営住宅・自力再建等の生活における見守り、相談、寄り添いの活動を行った。コミュニティの復興なくして被災地の復興はない。東日本大震災後に「生活ご安心センター」の運営を行い、①災害ボランティアセンター②生活支援③地域コミュニティ支援の復興だんご3兄弟による縦ぐし横ぐしでの支援体制を整えた。

被災者と行政、NPO、社協の強み（資源）を持ち寄り、相互に補完しあいながら、被災者の生活再建の礎となる。時代の求めとして、全年齢、全対象、属性にとらわれない福祉活動をするために、複合的な課題に対応する力や日常からつながって一緒に解決できる場を持つことや組織内や社会福祉法人などの連携、また異業種との連携も大事だと思う。一般社会が健全な幸せでないといけない。日常から連携できることが大切なことである。

【報告】「長野県内での災害時支援について」

報告者：橋本 正之 氏（長野県社会福祉協議会）



令和元年10月に発生した長野県台風第19号災害における災害派遣福祉チーム（長野県ふくしチーム）の活動について報告があった。長野県ふくしチームは長野市からの要請を受けて一般避難所支援、福祉避難所支援を実施した。どこに何を相談したら良いかわからない状態の人が多く、なんでも相談センターを2か所設置しニーズを掘り起こした。高齢者は日中避難所に残るので、フレイル予防の体操を行った。仮設住宅や公営住宅への移動が進み、次のフェーズに移る時の不安が聞かれ、生活相談支援員との連携が課題だと感じた。

被災者の訴えは不安や不満、体調不良などさまざまな心理が混ざっていることが多い。社会福祉士は、目の前にあるニーズへの対応だけでなく、退所後の生活再建や、被災地域のコミュニティ再生など、復興に向けてソーシャルワーカーとしての専門性を発揮していくことが求められていると結んだ。

中信地区総会

中信地区総会は2022年2月19日、えんぱーくICTルームを主会場にZoomによるオンラインにて開催され（当日出席者21人、委任状129人）、2021年度の活動報告と2022年度の活動計画が承認された。

田中支部長は「2022年度はICTを活用して会場に来ることもWebで参加することもできるような誰もが参加しやすい環境を整えて地区活動を進めていきたい。その一環として毎月第3木曜日に定例学習会・情報交換会を開催し、会員が学びを深める場づくりを進める。こうした機会を通して地区活動に参画し会を担ってくれる会員を増やしていきたい」と抱負を語った。

地域で「暮らす」 ～伊那市カレー大作戦から考える～

地域での「暮らし」を支えるための取り組みについて、2022年2月20日(日)にZoomにより学習会を開催した。

今回は、多様な方が参加し実施されている伊那市社会福祉協議会の「伊那市カレー大作戦」の取り組みの報告と参加されている飲食店やボランティアの方々をパネリストにパネルディスカッションを行った。



【報告】「伊那市カレー大作戦てなあと??」

発表者：新 実 亮 介 氏 (伊那市社会福祉協議会)

伊那市社会福祉協議会では、支援を受けている子どもや家庭だけでなく、まだ出会っていない子どもや家庭とつながっていくことを目的に、対象や背景を限定しない、支援色を出さないイベント型の事業「伊那市カレー大作戦」を実施。ねらいは「子どもと家庭とのつながり作り」だが、住民向けには「美味しいカレーを食べて、子どもも大人もお腹いっぱいになるー！」というメッセージで広報している。

「伊那市カレー大作戦」の実施方法は、社会福祉協議会が市民からいただいたお米や野菜を協力いただける飲食店に提供、月1回、飲食店がカレーを作り地域のボランティアが配布のサポートを行う。18歳以下

は無料、大人(保護者)は1食300円で提供。毎回、市内数か所で飲食店・団体・キッチンカーでカレーの提供をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のためテイクアウトで提供。昨年12月の実績は提供場所市内9地区17か所。提供団体17団体、ボランティア70人。提供数は1,454食(子ども827食、大人627食)。

提供されたお米や野菜が料理人に渡り、美味しいカレーに調理され、ボランティアの手を通じて、子どもたちの笑顔に変わるという笑顔の輪がつながり、広がっている。



【パネルディスカッション】

「カレーがつながる笑顔の輪」想いの循環をコンセプトに地域の皆さんが集まっている。

今回の参加者は商工会会長、多国籍料理のオーナー、地域に貢献したいという1ターン者、ボランティアに興味のある高校生2人の計4人でした。参加の理由は「商工会に声をかけられた」「ボランティアを研究にしている」などさまざまでした。

「子ども食堂なのに案外大人が多い」「子どもたちが歩いて来られる所があまりない。もっと近くで提供したい」「回数を増やしたい」「飲食店のつながりが増える」と回数を重ねていくうちに参加している皆さんが子ども食堂のイメージが変わったり、疑問や課題を自ら考えているという話がありました。

地域の方が喜んでいて企画になっていると手ごたえを感じながら「回数を増やしていきたい」「みんなで大きな幹になりつつある。小枝を伸ばしていきたい」と前向きな意見が多くありました。聴講者の意見として、高校生の福祉に対するすどい視線、コロナ禍での継続性の工夫などの意見がありました。

南信地区総会

委任状を含め143人の参加により、オンライン開催で開催した。

2021年度の報告として、学び合いとネットワークづくりを目的に、各地区にて3回ずつ行った研修について活動報告があった。その後、中期ビジョンに基づき2022年度事業計画の説明がされた。

総会の後は、オンラインではあるものの、3人ずつにグループで別れ、会員同士で自己紹介や仕事の紹介、日々感じていることなどを話し、交流を行った。

『民法改正・成年年齢引き下げの経緯と想定される影響』

2022年3月24日(休)、ばあとなあながの未成年後見連絡会と福祉活動委員会子ども部会での合同研修会をZoomによるオンラインで開催しました。中嶋慎治弁護士を講師に迎え、成年年齢引き下げなど今回の民法改正の経緯と想定される今後の影響をお聞きし、参加者29人による社会福祉士としてのアプローチと課題について学ぶ機会となりました。



講師：中嶋 慎治 弁護士

経歴：長野市出身、長野県子ども支援委員会 現委員。長野県弁護士会子どもの権利委員会委員長、日本弁護士連合会子どもの権利委員会委員を歴任。

民法改正の内容（成年年齢関係）

2018年6月「民法の一部を改正する法律」が成立。2022年4月1日に施行。

<内 容>

- ① 成年年齢の引き下げ（民法4条）20歳⇒18歳
- ② 女性の婚姻開始年齢の引き上げ（民法731条）16歳⇒18歳
- ③ 養親となることができる年齢は20歳のまま（民法792条）

<経過措置>

- 2022年4月1日（施行日）の時点で、18歳以上20歳未満の人は成年に達する。
- 施行日までに20歳に達していた人は20歳で成年に達したとされる。
- 施行日より前に、18歳、19歳の人が親権者の同意を得ずに締結した契約は、施行後も引き続き取り消すことができる。

<想定される影響>

- 「未成年者取消権」喪失に伴う18歳、19歳の消費者被害拡大の恐れ
- 自立に困難を抱える若年者の困窮の増大
- 養育費支払終期の繰り上げのおそれ
- 高校教育における生徒指導の困難化
- 労働契約の解除権（労働基準法58条2項）の喪失
(中嶋弁護士から提供された資料より抜粋要約)

研修を受講しての感想（独立型社会福祉士としての視点から）

- 人は失敗しながら成長していくと思うので、成人となることで失敗したときのダメージコントロールが自分でできるように支援できればと思う。実際には大人でもダメージコントロールが苦手な人はたくさんいる。個人的には失敗しても絶対大丈夫と言う根拠のない自信のある幸せな大人になることも必要かと思う。未成年を取り巻く問題は多々あり、外国にルーツを持つ子どもたちの国籍問題、罪を犯した少年（18歳・19歳は特定少年となり、大人と同じ刑事裁判を受ける。）など、それらにどのように関わっていくのかが、これからの課題となりうるのではないかと。
(社会福祉士事務所ハミングバード 春原 伸行)

- 我々ソーシャルワーカーは、現にある制度の枠組みの中でしか動けない（利益相反行為の恐れ）という部分がある。未成年後見人も18歳になった時点で任務終了である。自己責任の世界に突入することになる新成人に対して、ソーシャルワーカーとして、どのようなフォローができるのかと考えさせられる時間となった。独立型社会福祉士であれば、本人との間で新たに見守りの顧問契約を結び、最低限、高校を卒業し、社会に出るまでの関わりを続けるという方法も考えられるが、資力が乏しい人もいることから、行政の積極的な関わりも必要となってくるであろう。新成人の不安を取り除くフォロー体制（多職種連携）を早急に整えてほしいと願う。
(社会福祉士事務所あかね雲 森 寿枝)



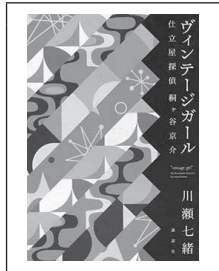
北信地区

氏名：小島 健一
所属：長野県社会福祉事業団



《業務内容》

障がい者支援施設管理者



- ◎本の題名 ヴィンテージガール 仕立屋探偵 桐ヶ谷京介
- ◎著者 川瀬 七緒
- ◎出版社 講談社

《本の紹介・社会福祉士としておすすめする理由》

某ラジオ番組で紹介され、興味を持って読んだところ、すっかり魅了されました。作者の経歴（服飾デザイナー等）もありますが、従来にないミステリー小説で、着衣のシワや汚れ等から「人の筋肉や骨が透けて見える」主人公である桐ヶ谷の言動、行動、観察眼、創造力、妄想力等々をはじめ、登場人物の誰もが濃いキャラで魅力的です。桐ヶ谷が被害児童の服装から未解決事件を解決していく過程は圧巻で、現代の社会的なテーマも存分に盛り込まれています。ぜひご一読を。

東信地区

氏名：荻原 美代子
所属：フリーランス



《業務内容》

成年後見人を主な仕事として活動している。



- ◎本の題名 ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力
- ◎著者 帚木 蓬生
- ◎出版社 朝日新聞出版

《本の紹介・社会福祉士としておすすめする理由》

著者は、悩める現代人に最も必要と考えるのが「共感する」ことだと言います。ネガティブ・ケイパビリティとは、「容易に答えの出ない状態に耐える能力」です。現代はポジティブ思考が優先され、それを良しとする傾向が強いのではないのでしょうか。しかし、私は、福祉的活動の多くがジレンマとの闘いではないかと考えます。そのような状況に耐えていく力のもつエネルギーを認識することが、明日への活力を生み出している、そう思える1冊です。

中信地区

氏名：小澤 悠維
所属：NPO法人アルウィズ



《業務内容》

事務局長、管理者、生活相談員



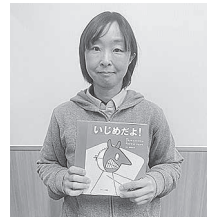
- ◎本の題名 ひきこもりでいいみたい 私と彼らのものがたり
- ◎著者 芦沢 茂喜
- ◎出版社 生活書院

《本の紹介・社会福祉士としておすすめする理由》

私の働いているNPO法人は介護保険サービスを主たる事業としていますが、行政からの要請があり、本年から「ひきこもり」支援事業も開始しています。未知な分野で不安もありますが、この本を読み進めるにつれて、「認知症ケア」に通ずる部分も多くあるのだと学びを深めることができました。「ひきこもり」支援は、全国各地で深刻化している問題だと思い、今回おすすめさせていただきました。

南信地区

氏名：矢澤 加織
所属：伊那市社会福祉協議会



《業務内容》

日常生活自立支援事業

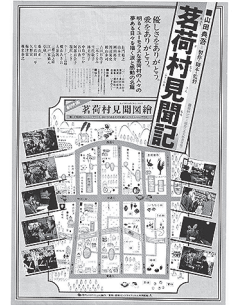
- ◎本の題名 いじめだよ！
- ◎著者 フランチェスコ ピトー
- ◎出版社 ブロンズ新社

《本の紹介・社会福祉士としておすすめする理由》

本を通して、日々相談援助を行うなかで、他人のためと言いながら自分が悩み、自分の利を優先させようとしている自分にはっと気づき、自分を恥じ、苦しくなってしまうときがあります。そんなとき、この絵本のこの文章をふと思い出します。「あいてのきもちなってみる」＝相手を理解、受容し、自分と他人の価値観の違いや、共通点を見出し幅広い視野をもっているか？ そんな風に、この絵本がソーシャルワークの原点を教えてくれている気がします。

「原点」

田中 眞佐子（高森町社会福祉協議会）



地域福祉に携わっていた十数年前、“温かい目を育てよう”と、地元のT.Oさんの紹介で『茗荷村見聞記』の上映会をした。知的障がい児（者）教育の先駆者の一人である田村一（1909～95年）が、福祉や社会のあるべき姿を世に問うた小説『茗荷村見聞記』（1971年）に端を発した映画だ。それを実践する皆様との交流はしばらく続いた。滋賀県東近江市の大萩茗荷村を何度も訪ねた。誰一人として変わりのない尊い命を与えられた一人の人間は、『差あって別なし』という「茗荷村構想」をともに学ぶ場所である。

茗荷村には村是があり、
賢愚和楽（けんぐわらく） 男女、老若、強弱、貧富など、皆それぞれに「差」はあるが、たったひとつのかけがえない「命」をもっている点ではなんの「別」もない。したがってみんなが仲良く「和」して「楽しく」暮らしていけるよう努力する。

自然随順（しぜんずいじゆん） 自然を汚したり、壊したりしないで、衣食住とともに、自然にしたがって生活して行こうと努力する。

物心自立（ぶっしんじりつ） 自分のことは、なるべく自分でやろうという、心の自立と物の自立を目指す。
後継養成（こうけいようせい） 村づくりは幾世代にもわたることなので、次代を担う若者の養成に努力すること。

T.Oさんも数年前に旅立ってしまった。原点を振り返ってみる今日この頃である。

*次号は、諏訪市社会福祉協議会 桜井 幸雄さんにバトンタッチします。

信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

一歩踏み出す原動力のために何が出来るかを求めて

市川 広美（いろうどり生活応援相談室）

当事業所は単独の居宅支援事業所です。「公正中立・自己決定・自立支援」「協働・共有」「広がる地域連携」を念頭に日々活動しています。青臭いと思われがちですが、あえて公正中立を重要としているのは、そのときの利用者の状態や、環境に合わせた協力者を募っていくため、サービスや環境選択に制限を加えることなく選択できることが、未来に踏み出す一歩となるからです。そのためのサポートでは、惜しみなく介護保険の説明や、サービス見学同行、すぐに相談できる体制を整える等行動あるのみの姿勢で、利用者や家族の暮らしに合った、ネットワーク作りにも動んでおります。そのような姿勢と行動が、喜ばしいことに、地域のたくさんの事業者等と知り合い、つながり、互いの協力者となってきています。各市町村の包括との連携、地域住民の皆様とのつながりもしかりです。一緒に働く仲間も資格や経験も多岐。社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、歯科衛生士や保育士、教員等多岐にわたっていますので、眺める視点はさまざま。仲間の意見に興味を持ち聴く事は、学びを得られます。なぜを掘り下げて一緒に考えていると、思いもよらない意見が聞こえ、思わず「いいね」を皆で連発しています。



これからも地域や事業所、一緒に働く仲間と垣根を作らずに、お互いがつながっていくことを精進していきたいと思います。興味が湧きましたらお声掛けをお願いします。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<https://nacsw.jp>) をご覧ください。

| 日時(曜日) | 事業名・研修名 | 会場 | 備考 |
|----------|---------------------|-------|---------------------|
| 5月14日(土) | 基礎研修Ⅱ 第1回 | オンライン | 第2回 5/15、第3回 6/12ほか |
| 5月22日(日) | 基礎研修Ⅲ 第1回 | オンライン | 第2回 6/25、第3回 7/24ほか |
| 6月19日(日) | 地区総会・まるごと学会 | オンライン | |
| | 長野県社会福祉士会30周年記念セミナー | オンライン | 鼎談（原田正樹氏、山口光治氏他） |

◎ 入会状況（2022年3月末現在） * 会員数：1,185人 入会率：26.37% 人口10万人あたりの会員数：56.78人

編集後記

子どもの頃、日本は戦争でたくさん悪いことしたから、戦後もしばらく正義の国の連合に入れなかったんだよ、と先生から聞き、日本に生まれたことを、後ろめたく思ったことがありました。子どもながらに、あの国は正義の国、あの国は悪い国、と分類していたように思います。社会福祉士として、色眼鏡を外して見る必要があるとは常々感じているけれど、実際どこまで色眼鏡を外せてるのかな。自分にできることは何かな、とウクライナのニュースを聞いたたびに、考えています。

(T.H)